

巨大地震

19年4月

和田 宏

巨大地震でなくても地震は嫌なことです、個人的には自分が生きている間に起きて欲しくないと思うばかりです、国民の地震から逃れたいとの要求に応えるべく予知の為の研究が国家的に続けられています、その基本はどういうメカニズムで起こるのか先ず解明する事です、現在の定説はプレートテクトニクスなる、地動説、否地層移動説ですが、未だに役立つ予知情報を聞いたことが有りません、何故でしょう、定説を信じて良いのかと疑問を持つ人が居ても不思議では有りません。

別のエネルギーの可能性を示唆して仮説から予知を試みている人の著作を紹介します。

小生は静岡県西部に住んでいますが近県即ち愛知、岐阜、三重、静岡のテリトリーでも岐阜では既に地震発生を引き金に指が掛かっているかもしれない(徳山ダム注水開始)、東の静岡では近く同じような事態が起きようとしている(大田川ダム工事中)、気付かなかったエネルギーに拠るものでそれは人為的な事である、と仮説に則って警鐘を発している男がいるとしたら心穏やかでは過ごされない。

今月発売の、仮説「巨大地震は水素核融合で起きる」山本寛著、1600円、工学社、の要点の一つは上記の通りです、著者はヤマハ発動機でモーターサイクルの設計、品質管理等に携わりながら、究極のエネルギー、原発の安全性等にも心を馳せた多彩な技術ジャーナリストである、

小生もスズキでモーターサイクル、アウトボードエンジン等の設計にかかわった経験を持つが、力学や物理学の聖域から外れた現象力学、現象理論に支配されている部分が自動車や、大きな船に比べると多いと感じている、それは40歳を過ぎてからアウトボードエンジンの設計に変わった時に、小型ボートの本質を教えてくれるものは無いかと資料を探したが残念ながら日本の文献は前記大きな船に関する物ばかり「これらしいと」感じて読み始めたのが、Peter de Cane、の「High speed small craft」、planning, spray,を説明する章のphenomenon logicがユニークでした。

脱線しましたが、著者の類稀なる事象を診る力を強調したいのです。

モーターサイクル開発の経験に加えて、空中に浮いて飛ぶ航空工学を修めた著者の、現象から本質を見極める洞察力の強さは想像を超えていると考えられます。

ご一読をお勧めします。

この本はタイトルの硬さとは裏腹に縦書きお話し調で、読み易く書かれています、特に後半のテンポの速さは「スターリン暗殺計画」檜山良昭著、1979年。を思い浮かべさせるほどです、インターネットの紹介記事は下記のaddressをどうぞ。

<http://www.kohgakusha.co.jp/books/detail/978-4-7775-1281-2>

書店で立ち読みするなら第6章以降でしょうか、年金暮しでお小遣いが不自由なら図書館に購入申請する手も有りです。

以上